

酒々井町郷土研究会々報

第50号

昭和63年10月1日
発行 酒々井町郷土研究会
編集 部

昔の宿場酒々井駅

駅 昔街道の所々に馬又人足を揃え置
き旅人の求めに応じ取り替えた所
押尾 克巳

成田山へのお参りを済ませた善長な
る人達が幅途につき三里ばかりで中川村の坂
にかかるが、この坂、現在の下り松を昔は百
取らずの坂と呼んでいたようで、話によると
追剥ぎが出ても言文も取ることが出来なかった
とか、多分これは成田山への参拜で、お不動
様の置設と加護により難を逃れられたのだら
う。その故に百取らずの坂と解したい。
以前この坂には伊藤の釜と進木と同年代の
松並木があり、深緑の松は、街道を往き来
する人々に威厳と優美と安堵感を覚えさ
せ、旅情を慰めたらしい。
その坂の途中には成田山までは一番古く講
中の下講が、元禄元年(一五〇〇年)に
建てた石塔があったはずだが現在は見当
たらぬ。
坂の中程から見る印旛沼の高瀬舟の真
帆や片帆、そして印旛沼を池にしてたつ筑
波山は道中記にもよく出てくる絶景であ

る。まさに盆景絵であろう。今ではこ
の様な景色を見たくとも見ることは出来
ない。

急坂を登りきり、一息つくところには
旅人が喉を潤したであろう茶店「しから
さ」があった。茶店のすぐ前に麻賀多神
社の森があり、ここから八坂神社まで
は略直線道路で酒々井宿場のメインス
トリートである。この中程に有名な町
名発祥の因である「酒の井」があり、
その隣が右京屋敷、妙見社、八抱松、
肥前殿坂となる。八抱松は絵図で見ると
誠に大木で威厳があり、容姿も美しい。
現在は生涯生活センター、給食センター
の入り口に記念碑はあるが絵図でみ
れば昔を偲ぶことはできない。

当時の酒々井の宿場には旅館が多く、
甚内、阿波屋、佐野屋、大國屋、米屋、
八坂神社の前には宿屋、中屋などあり、
その他にも休み茶屋も結構あり、客引
く女性の声で終日賑やかだったと物の本に
書かれている。
今の勝蔵院の不動様は、戸田能登守
の奇蹟で、昔現在の中央台の公共広場

の辺りにあり、成田山の姉不動として賑
やかだったと故老が話していたのを聞いた
覚えがある。勝蔵院のある下宿には昔蘭
所の青樹堂があり、続々三豆塚多古古面
の分岐点には石渡勒石衛門の本陣があり、
恐ろしく多古の殿様あたりが休息したのも
であろう。その先隣が有名な野馬空
の島田長右衛門で、裏の広場には馬の捕
り込め場や競り場があり、現在もその
面影を残す土手が残っている。



この酒々井の宿場には人力車が
んと四十八輛もあり、駄賃取りの馬も
数多く成田参詣客の足として賑わったよう
だ。住民にとっては馴染みで今も言う言葉
農家が大方だったのだろう。

『成田名所図会』 酒々井宿より

愉快なことに八月の祭にこの宿場で馬の
早駆けがあったそうだ。この事は佐倉藩
の学者磯辺昌言が三徳元年(一七一二年)
に記した『総業概録』に、大佐倉八幡の項で
「毎年八月十二日酒々井の旅所に神幸し
走馬祭あり」と書かれている。何時頃
まで続いていたのだろうか？ お年寄の
方々の中には記憶しておられる方もお
いてははいらうか。

それからそう遠くない昔は時々秋の
祭に大佐倉から八幡様の御神輿の
渡御があり、本佐倉城の入口の大手
の坂まで、それぞれ意匠を凝らし
祭装束として出迎えに出たものだ。この
ことの始まりは何時頃のことだがわか
らないが、おそらく昔酒々井の地名
発祥以前本佐倉城時代の頃、この辺
一帯は一月となり、農耕祭などの
行事を行っていたと考えられる。
又、昔は勝手に苗字を使うこと
が出来なかった為、職業名を苗字の
代りとして呼んだらしい。例えば
馬具屋、荷鞍屋、甘酒屋、酒屋、
蒔蒔屋、按摩屋等々、この呼び方
のほうに馴染みが深い。メインス
トリートに並んだ商家が当時の巻の情
報の交換場となり、四方山話に花が咲
いたことであろう。

勝蔵院より佐倉へ向かう街道には、
子安神社、大鷲神社があり、中央台に

郷土研日誌 (6/22~9/20)		
月日	内容	参加人数
6/22	会報校正	6名
6/30	会報折込及び発送	17
7/1	映画撮影打合わせ会議	25
7/5	佐倉街道を歩く(7)	16
7/7	県内見学会の受付	6
7/9	古今佐倉真佐子を読む会	12
7/10	石仏民俗調査	8
7/15	県内見学会下見(小見川・東庄方面)	5
7/20	県内見学会 小見川(善光寺・松本幸四郎墓) 佐藤商中の生誕地・東庄米民の墓 福源寺・竜福寺・天六天・ 山倉大社	36
7/31	映画撮影(文化財愛護・草刈清埜) (史談会)(野草観察)	32
8/10	歴代町長墓参(N0.1)	18
8/11	映画撮影(編集会議・石仏名札付け)	30
8/18	会報編集会議	8
8/29	旅行委員会	12
9/2	1泊見学旅行打合わせ(千葉交通)	3
9/9	県内見学会下見	5
9/10	古今佐倉真佐子を読む会	16
9/10	屋形船印旛沼周遊 申込受け付け	4
9/13	歴代町長墓参(N0.2)	17
9/14	4・4期運営委員会	23
9/17	郷土講座 白石六一郎歴史教授	64
9/18	石仏民俗調査	6
9/19	屋形船印旛沼周遊	15
9/20	会報50号校正	8
延人員		423

移転した成田信用金庫のあった所には一里塚の跡があり、少し先の十字路の所には米屋旅館、佐野屋旅館があったと思う。

芝山道の分岐点には、以前道標の石塔があったがどうしたのか今は芝山の道輪館の庭にある。当時の芝山仁王尊は正しくは天台宗天台山観音教寺と言うが、一時代は江戸方面をほめ各地から多くの信者が参詣し、成田山と肩を並べる勢いで、善男善女が陸続と芝山街道を往き来したらしい。この人達の奉納した藁中の額が今でも残っている。

思えば酒々井の宿場は成田山と芝山仁王尊の二つの信仰の本山を近くに持ち栄えた宿場だったのである。この賑わいは明治三十年(一八九七年)の成田鉄道の開通まで続いたと考える。

乱文多謝

中央台にお住まいの亀井香々乃さんは郷土研の会員であり、野草の研究家として知られている方がありますが、この程、伊藤新田の山中で採取したものを、佐倉市在住の植物学者、鈴木貞雄先生に調べて戴きましたところ、

イネ科の「ニコゲヌカキビ」という名で「那須の植物誌」に数年前はじめて掲載を發表された「チゴザサ」の一種で、

野草ニュース
野草の珍種発見



イネ科

「ニコゲヌカキビ」

実物の63/100大

千葉県では未発見の非常に珍しいものと分かりました。

『千葉県植物誌』に追加登録されるべきものであると注目されています。酒々井町で新発見されたことには大きな意義を感じます。

(相京記)

入会案内
会費 年 1,000円
徴収 毎月総会当日
期間 1月~12月
入会希望の方は随時受付付けています。
連絡先 会田秀雄宅
電話 0434(96)4861



ありがとうございました

『ふるさと』を知ろうー郷土研究会の映画撮影が七月三十一日、八月十一・十八日の三日間、空模様とにらめっこで行われました。なれないことでしたがいろいろのハプニングもありましたが無事終了。多数の御参加をいただきありがとうございます。九月五・十一日に放映されましたが、皆様お楽しみいただけたことと思えます。

郷土研の活動が広く認められ、より一層の理解がいただけたものと役員一同喜んでいきます。

これからますます意義ある活動が続け、歴史ある酒々井町と共に郷土研を守り育てて行くにはありませんか。

撮影に参加して

武藤 厚子

七月三十一日、前日まで続いた梅雨も上って、今日は文化財愛護の草刈りと史談会との撮影が行われました。

「カメラ用意、もつとにうと笑って、そちらの方もって詰めて下さい」等々と注文が飛び交いながらの撮影かと思つておりましたら、カメラがどこに居るのか、いつ廻っているのかも知らないうちに、さうげなく自然に終わりました。「あとには午後です。お疲れさうです」と共に会員達は別れて行きました。

私も今日のこの草刈りに時間の都合が良かったので参加してみました。中には今更になうナイ格好の養蚕姿の女性、地下足袋を履いた男姓も混じって和やかに、カメラの廻る前から草刈りが始まっておりました。

相宗さんが「そんなにはいしよけんぬい刈らんで下さいよ」と言われるくらい刈り込んで下さい、撮影用に残すのに大変でした。

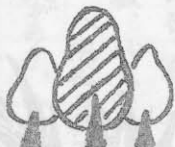
午後からは史談会です。教室に入ると午前中とは打って変り、紳士淑女の姿で本に向かっています。

ものとおろ磯山さんが読み、皆んなで意見を交換していくのですが、この日はやはり撮影の注文で思うように進まず、やっと撮り終わりました。

それにしても視聴者に画として届くのは大変なものと感じました。九月五日の放送日には「さすが郷土研!!」と声を掛けたくなるような画面が撮れている事を祈りつつテレビを見たいと思えます。

山倉大神を見学して

高橋 喜重



泉をみんで一休み
くんでもつきない泉のよけ
よもやまはながつづきます。
どうぞあなたも仲間には

七月二十日、県内見学会に参加させて頂きました。当日はお天気にも恵まれ、朝八時三十分出発。小見川、東庄民の森、更に海上町港不動殿後に山倉大六天、山倉大神を見学しました。以前は何れの場所もあまり関心なかったもので、見るもの聞くもの皆驚くばかり、地方の歴史を知る、こがたまはんとくに感銘しました。

山倉大神は鬱蒼と茂る大木に包まれ、如何にも神々しく感じられました。今では参詣客もあまり多くはないようですが、社殿の正面右側には、今尚昔

の面影を残す若松屋旅館があり、その老主人、武田四郎さん(八十オ)に話しを伺いました。山倉は今は山田町ですが、昔は新治山倉村といました。山倉大神は風邪の護神、又海の風の鎮め神として九十九里、銚子、房総、相模、遠くは小名浜方面からも漁師等の信仰が厚く、議社や参詣客で大変賑わい、周辺には泊り宿が軒を並べたそうです。最初は山倉大神と大六天は一体のものであったそうですが、本殿の正面上には今も名残りの山倉大六天神宮と書かれています。明治二年、神仏分離令により、山倉大六天王が別当観福寺に遷され、以後地名を入れて山倉大神といわれています。昔は交通の便が悪かったので、宿では皆馬車を仕立て、成田、芝山、小見川方面へ客を迎えに出たそうです。尚、境内右側の御神燈の石に「天保九歳飯岡村助五郎」と記されていますが、昔、十手持でありながら俵客であった、天保水滸伝に有名な助五郎だそうです。彼も當時は漁師の網元であったので山倉大神を信仰して居たと申します。

見学会会計報告

9/19(月) 屋形船周遊	
参加数	15名
収入	2500×15 = 37,500 (含費)
支出	
船代金	25,000
舟代	200×17=3,600 (船頭2分を合)
合計	38,600
差引不足	1,100円
郷土研より補充	

9/20(水) 小見川・東庄方面見学会	
参加数	36名
収入	1000×36 = 36,000 (含費)
支出	
弁当及びジュース	16,910
バス使用料	2,000
神社心付(25所)	5,000
下見が川代化	3,660
合計	33,570
残金	2,430円
郷土研に繰入れ	

私は郷土研究会に加入させていたでいて、まだ日が浅いのですが、これからは参加させていたでいて、さうに地方史の勉強をしたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。記したいことは多くありますが、郷土研究会の益々の発展を祈念しつつ、此の辺で筆を止めたと思います。

熊野の清水

古く文献に「熊野、弘法大師(七四一―八三六)が布教のため諸國を徘徊された折、たまたま土守の地は、水不足で農民が非常に苦勞をうけるのを憐れんで、法により清水を湧き出させたといふ。これはたまたま地の人たちは飲用に農耕用に大いに恩恵に浴びたのである。室町時代には「約百五箇、鶴岡八箇」の社領であった。熊野町史に記したこの清水を利用して、八箇箇の湯治場を築いて来たといふことが記され、湯治場を築いたといふ。

郷土研行事業内

S63年10月~12月

	10月	11月	12月
史談会	6日(木) 午後1時00分 「古今佐倉真佐子」を読む会 中央公民館(現地学習・雨天室内学習)	12日(土) 午後1時30分 「古今佐倉真佐子」を読む会 中央公民館	10日(土) 午後1時30分 「古今佐倉真佐子」を読む会 中央公民館
石仏民俗調査	2日(日) 午前8時30分 中央公民館ロビー (雨天中止)	6日(日) 午前8時30分 中央公民館ロビー (雨天中止)	休
名勝探訪 野草の会	5日(水) 野草の会(午前中) 野草観察を歩きます。 伊藤・伊藤新田方面 午前9時30分・中央公民館(雨天中止)	16日(水) 佐倉街道を歩く(9) 集合場所一京成酒々井駅・午前8時20分乗車 (コース)京成酒々井駅一國府台下車一弘法寺 一真間の経橋一須賀公園一御湯の石碑一 大所神社一八幡敷不知一八幡神社一 京成八幡駅一京成酒々井駅(雨天中止)	6日(火) 佐倉街道を歩く(10) 集合場所一京成酒々井駅・午前8時20分乗車 (コース)京成酒々井駅一京成中山駅一 中山法華経寺一興の院一葛羅の井戸一 成深夏集人正の墓一京成西船一 京成酒々井駅(雨天中止)
県内見学会 (出発:午前8時30分) 中央公民館	10月17日(月) (定員38人) 参加費 1,000円 申込受付 10月4日(火)午前10時 公民館ロビーまで受け付けます キャンセル 旅行日の3日前まで受け付けます。 連絡先 会田秀雄宅(TEL 96-4861)	大多喜方面 コース 公民館—布田・薬王寺—熊野の名水—妙楽寺 —十石石ドライブイン(昼食)—水島郷土館— 酒々井着 ◎熊野の名水をお持ち帰りの方は瓶等用意して下さい。 (送料自己負担) ※履物は履きかたに、すべらないもので来て下さい。(昼食は各自が)	
歴代町長墓参 (3)	10月11日(火) 午前9時30分 中央公民館 中川新屋畑墓地・伊藤石堂墓地・柏木風花墓地・上岩橋大崎墓地 (小雨決行) お供えのお花やお線香は会の方で用意します。ご参加お待ちします。		
1泊見学会 (出発時間) 午前 6:50-光沢山 6:55-日栄列ニジ 7:00-公民館	11月8日(火)~9日(水) 参加費 18,000円 募集人員 50人 申込受付 10月4日(火)午前10時公民館ロビー キャンセル 旅行日の5日前まで受け付けます。 連絡先 会田秀雄宅(TEL 96-4861) までご連絡下さい。	那須方面 宿泊先・那須高原ホテル(TEL 02877-6-3131) コース(1日目) 酒々井中央公民館出発—雲巖寺—大蔵寺—白河の関 —昼食—那須—殺生石・温泉神社—ホテル(宿) (2日目) ホテル出発(AM8:30)—福島県いわき市・白河阿弥陀堂 —小名浜水産センター(昼食)—勿来の関—浄蓮寺— 酒々井着(P.M.6:00予定)	

見学会案内

県内見学会

東金一大多喜方面
10/17(月)

薬王寺(東金市上布田)
布田の薬師さまの呼び名で親しまれて
おり、日蓮宗の単立寺院。鎌倉時
代の末期、日蓮上人の開基と伝えられ
ている。日常上人は日蓮上人の高弟で、
中山法華経寺の開山第一世である。
熊野の名水(長南町熊野)
この清水は、弘法の霊水といわれ、昔か
ら人々に親しまれた由緒ある湧水である。

妙楽寺(長生郡睦沢町妙楽寺)
重文の大地如来坐像がある。平安末期の
作と思われ、高さ99cm、丈六仏の逸品で
七ヶ枝の寄木造り。不動明王坐像は高
170cm、平安時代末期の作とみられ、毘沙
門天立像二体ある。一体は平安末期、
一体は南北朝・室町初期のものと言わ
れている。長い石段をのぼって行くが、右
側に日吉神社があり、山王権現の懸化が
ある。

永島郷土館(大多喜町筒森)
現在の家屋は、明治初期に建てられ江戸期様
式を伝える。百六坪の内蔵には、沢山の画や
貴重な古文書や骨董が展示されている。
一泊見学会 那須方面
10/8(火)~9(水)

一泊見学会
雲巖寺(栃木県那須郡黒羽町)
臨済宗妙心派。文治年間(一一二六~三三)
初祖国元という人開創と伝え、詳細不明。
もみじの紅葉は見ものである。光園と関
係が深い寺。老翁の句碑がある。寺は現在
大雄寺(栃木県那須郡黒羽町黒羽田町)
曹洞宗、黒羽山久遠院大雄寺と称す。
県文化財の建物は室町時代の形式を残す。
釈迦如来坐像、聖観音坐像、釈迦涅槃図
など文化財を多く所蔵している。

白河の関(福島県白河市)

真、菊多関(勿来関)念珠関と並に奥羽三
関の一つ。古代の東山道がここを通り、大和朝廷
の力が及ばなかった奥州に対する防禦地点でもあ
った。
殺生石(栃木県那須郡湯本の西にある)
狐の化身といわれる岩で、付近はかえる噴出孔群
温泉神社(湯本温泉)

那須寺(栃木県那須郡那須町)
那須寺一が源平屋島の戦いに於て前、ここに祈
願をいたされたとされている。
白水阿弥陀堂(福島県いわき市白河町)
(福島県いわき市内郷白河町)
国宗が岩城街道の末七人徳尼が永暦元年(一
一六〇)に建てたもの。平安後期。
勿来の関(福島県いわき市丸面)
古代の関所。白河・会津とも奥羽三関の一つ。
はじめて菊多関といた。名の由来は、報夷来る
勿れしとも浪越えしとも。源義家や西行の歌
芭蕉の句を高く
浄蓮寺
勿来から西へさし上る。本堂のまがいの屋
根が異様に深い。

編集後記

ギリギリ照りつける太陽、ムクムクと
盛りあがってくる入道雲等、夏の舞台
装置のないまま秋が訪れてしまった。編集室
は、ともすると遅くからになりそうだし
たが、テレビの撮影も無事終了し、会
報三十号の編集がスムーズに行われま
した。
秋はスポーツや芸術など、各地で多彩
な行事があります。郷土研でも色々
と計画しています。皆様お誘い下さ
りませんか。皆様御参加下さいませ。
なお、皆様の会報には、是非、楽しい
文や、御意見を盛り込みたいと思いま
すので、御投稿をお待ちしています。



映画撮影記念会報

映画撮影用に編集部にて作りました会報です。一面のみですが記念になるかとお届けいたします。(分責編集部)

古今佐倉真佐子に見る
勝蔵院を訪ねて
武藤 厚子

「古今佐倉真佐子」の勝蔵院のくだり、お不動さんのお顔が実は信玄公であるという事について、そのようなこともあるのかとの疑問に早速お不動さんにお目もじに出向くことになった。

本には、「不動別当也、四間四方ぐらいのくすやの堂。座像の不動新仏なり。左右こんかう、せいたがある。三鉢共さいしき。不動御長七尺斗。脇立三尺余有。しこくの犬不動也。……中略……此の不動元年江戸において刻節、甲州よりしんげん(信玄)の像同所にて刻。其節御ぐし(首)を取違、しんげんのあたまを不動へ仕付、不動のあたまをしんげんの像へし付たるよし、しんげんのかみの毛をうへ、そのうへをねりたるよし也。こんせう(紺青)にマ

塗てあれとも、扱々こはさめんぞうにて、左もありつべき事也。所のもの申伝る。夫よりよく見ると、不動のかほとは余程違たるよし、あたまはこふこふたちて栴色に塗てある。



勝蔵院本堂

此不動、成田不動入皆しんじんする故、此不動へさんけいを引つけんが為、堀田上野殿のんりうのよし。しかし参詣なし。……後略」と記されている。

さて、この勝蔵院は現在無住寺となつてゐるが、酒々井町の歴史で重要な役割を果たして来た由緒ある寺である。勝蔵院はもと、東台(中央台団地内)にあったが、元禄十二年、時の佐倉城主戸能登守の篤い信仰心によつて、現在地に寄進建立されたものである。

赤塗りの本堂は、江戸時代の建築様式を伝えている建造物として、町文化財の指定をうけ、本尊の木像不動明王坐像も江戸時代の作であるが、酒々井町の繁栄の歴史を語るものとして町指定となつてゐる。

受け刻んでいたが、首を取り違え、信玄公の頭をお不動さんにつけ、不動の頭を信玄公像へつけてしまったとかで、信玄公の髪をうえ、その上を塗つてしまつたそう。紺青に塗つてあるが、大変に恐ろしい面縁でまことに当然なことである。と、所の者は申伝えている。……それにしても成田のお不動さんのようには参詣の人が訪れなかつたらしい。

不動明王とよばれるのは、火を觀想して動せず、あらゆる障害を焼きつくす大智の火を身から発するといわれ、大日如來の使者となり、悪を断じ、善を修し、真言行者を守護する役割をになつてゐる。そのお不動さんごと「勝蔵院のお不動さんに信玄公がのりうつられた」と宣伝すれば、参詣の人々の波、その御利益にあずからんと、ひしめき合つた事疑いなし、と今さらながら残念に思われる。そのようになつてもなつていたら、酒々井の町もつと発展し、本佐倉城跡もそつと小城の一つも建つていたのではないかと思ふのは少し欲深い思ひなのだろうか。下の黄で上唇をかんだお不動さんの顔は、全くその通りだといふるような気がしたのだが。